

星城大学

研究シーズ集

2009年11月

星城大学・地域交流センター

ごあいさつ

星城大学・地域交流センターは、本学の「地域社会に貢献する大学」としての使命を果たすために設置した、地域の皆さまとの積極的な交流を促進する窓口となる組織です。

いま大学には、大学が保有する教育・研究資源を最大限に活かして、地域課題に関する調査研究や課題解決に向けての実践的活動を推進し、地域に学び・貢献する学生教育を活発化することが求められています。そのため、地元東海市をはじめとする近隣市町の行政・団体・企業・市民等の皆さまとの交流を通じて、地域社会の文化・経済・教育・医療・健康など、様々な領域での具体的な社会的貢献を実現したいと考えています。

地域交流センターでは、東海市における「産学官連携協議会」設置を契機に、その事務局を担当するとともに、幅の広い地域交流を推進しています。例えば、東海市観光振興のための共同研究、細井平洲の教えを継承する「文化継承論」の開講、地域連携懇談会の開催、大府市産学官連携交流会への参加、行政・経済団体等の審議会・委員会等への参加促進、学生の地域貢献活動への支援、地域交流モデル事業への支援（学生の小中学校部活動アシスタント、都市経営シミュレーションを用いた研究、社会福祉協議会との連携による運動教室、介護予防への学生参加、市民参加型の文化シンポジウム、市民活動との協働を促す「コラボ・カフェ」、地域ICカード研究会、東海まちづくり研究会などの支援）などを行ってまいりました。

そこで今回は、本学の専任教員の①専門分野、②プロフィール、③主要著書・論文、④研究紹介、⑤地域へのメッセージからなる「研究シーズ集」を発行することといたしました。ご活用いただき、社会に貢献する新たな協働のプロジェクトが数多く生起することを願っております。研究内容等にご関心をお持ちいただきましたら、お気軽にお問い合わせください。

ただし、今回のシーズ集は、時間的な制約もあって教員からのシーズ提供は任意としましたので、全専任教員のシーズ紹介とはなっておりません。また、一人一頁に収めるために、詳しい説明を割愛したものもあります。このことをご理解のうえ、ご利用いただきますよう、お願い申し上げます。

2009年11月

星城大学
地域交流センター長 岩田 均

目 次

●ごあいさつ	1
●目次	2
■経営学部	
赤岡美津子教授 : 教育カウンセリング、教育心理学、教育社会学、家族関係論等	3
秋山健太郎教授 : 経営戦略論、企業論、産業論、経営管理論	4
伊藤征一教授 : 計量分析、情報経営、ネットワーク社会論	5
岩田均教授 : 文化経済学、地域産業論、事業型市民セクター論	6
川口啓教授 : 保健体育科教科教育、スポーツ行政、教育方法	7
北出篤夫教授 : 応用物理学	8
北野達也教授 : 医療経営管理、地域医療、医療教育、国際医療協力、医療安全	9
法雲俊邑教授 : 情報ネットワーク、経営工学、情報社会学	10
松原隆治教授 : 考古学、文化人類学	11
南川忠嗣教授 : 流通論、まちづくり、地域活性化、農商工連携支援	12
宮川清教授 : 広告論、広告表現論、マーケティング論、消費者行動論	13
横山正博教授 : 人的資源管理論、人材育成論、リーダーシップ論	14
盧聰明教授 : 経営学、組織論、企業文化論	15
天野啓二准教授 : 環境情報論、国際政治学、地域研究	16
加藤知子准教授 : 思想、言語、キリスト教、英語	17
前田ひとみ准教授 : 言語学、日本語学、日本語教育	18
山田正人准教授 : 都市情報、都市計画、交通工学	19
野村淳一講師 : 社会システム工学、経営工学、生産管理	20
■リハビリテーション学部	
竹田徳則教授 : 高齢者健康支援学、老齡期作業療法学、社会疫学、認知症予防	21
武田洋平教授 : 辺境文化研究、音楽評論、美術評論	22
中島英司教授 : 哲学、倫理学	23
長谷川龍一准教授 : 作業療法学、体力科学、健康支援学	24
森川孝典准教授 : 文化人類学、歴史学	25
■大学院・健康支援学研究科	
三田勝己教授 : 生体情報工学、神経筋生理学、健康・福祉工学	26
●交流・連携の推進のために	27

注1. 学部、職ごとの50音順。

注2. 教員からの任意の提出による（全教員の研究シーズを掲載したものではありません）。

I 専門分野

教育カウンセリング、教育心理学、教育社会学、家族関係論、キャリア開発論

II プロフィール

京都市出身、立命館大学文学部卒業、京都大学大学院教育研究科研修員修了、京都市教育委員会教育相談総合センター指導主事カウンセラー、2007年から星城大学経営学部教授、心理検査士、上級教育カウンセラー

■担当科目：教育心理学、教育相談、生徒指導論

■所属学会：日本教育カウンセリング学会（理事）、日本教育心理学会、日本労務学会、京都市学校教育相談研究会（顧問）、立命館大学日本文学会

■社会的活動

家庭裁判所調停委員、日本教育カウンセリング協会スーパーバイザー、京都市子育て支援センタースーパーバイザー、京都市教育相談総合センター専門主事カウンセラー、京都市学校教育相談研究会顧問

III 主要著書・論文

- ・『“育てるカウンセリング”による教室対応全書』2003年、図書文化社、共著
- ・「告発から解放へ・生育歴に悩む母親の子育て相談」2003年、京都市永松記念教育センター『研究紀要』第1号所収、単著
- ・「“よい子”の不登校を巡って」2004年、京都市教育相談総合センター『研究紀要』第1号所収、単著
- ・「進路選択と決定に寄り添って」2005年、同『研究紀要』第2号所収、単著
- ・「心に響く“キャリアカウンセリング”のための一試行」2006年、同『研究紀要』第3号所収、単著
- ・「父が気付けば：学校・家庭・専門機関の連携」2007年、同『研究紀要』第4号所収、単著
- ・「女子中学生に見る、職業意識の形成」2008年、同『研究紀要』第5号所収、単著
- ・「孤独な子ども・親・家族」2008年、家庭裁判所会報6月号所収、単著

IV 研究紹介

①愛着関係の有無と思春期クライシス

各発達段階に於ける愛着関係のありようが如何に人格形成に関わるのか、とりわけ思春期通過との関連性を、面接による聞き取りを通して調査している。

②教育に於けるカウンセリングの役割

カウンセリングの思想と手法を用いた学級経営・生徒指導・授業運営への対応により、「教師」による学校カウンセリングの在り方を調査研究している。

V 地域の皆さんへのメッセージ

「温かく」「見守れば」、子ども達は必ず自ら動き出します。大切なことは、大人達がそのことをどれだけ信じ「待てる」か、でしょう。学習会の講師など、お手伝いの出来ることがあれば仰って下さい。

I 専門分野

経営戦略論, 企業論, 産業論, 経営管理論

II プロフィール

三重県津市出身, 早稲田大学理工学部卒業, 中部電力株式会社 四日市・緑電力センター所長, 知的財産グループ長, 名古屋大学大学院経済学研究科博士課程修了(経済学博士), 2009年から星城大学経営学部教授

■担当科目: 経営学原理, コーポレート・ガバナンス, 企業倫理

■所属学会: 日本経営学会, 組織学会, 公益事業学会

III 主要著書・論文

- ・「規制緩和下における電力会社の戦略—競争戦略と全社戦略の統合—」2005年、『日本経営学会誌』第14号所収, 単著
- ・「電力会社の多角化戦略」2006年『日本経営学会誌』第18号所収, 単著
- ・「電力会社の通信事業戦略」2008年、『名古屋大学経済科学』55巻所収, 単著
- ・「持続的な競争優位の確保に向けた都市ガス会社の戦略—規制緩和への対応から国際展開へ—」2008年、『公益事業研究』60巻第1号, 単著
- ・「総合エネルギー企業を目指した電力会社の戦略—グローバル戦略構築に向けて—」『公益事業研究』60巻第4号, 単著

IV 研究紹介

①日本のエネルギー企業の経営

日本のエネルギー企業は, 規制緩和下の市場競争, エネルギー・セキュリティの確保, グローバルな地球環境問題, の3つの大きな課題に直面しており, このような状況の中で, 持続的な競争優位を構築していく必要がある。当研究では, 「企業益」「国益」「グローバル益」のバランスの視点と経営戦略論, 取引経済学等の視点から日本のエネルギー企業経営の方向性を模索している。

②経営戦略論

戦略論を活用する観点から, ポジショニング, パワー, リソース, ラーニングの4つの視点から, 実証研究により普遍的な経営戦略論の構築を模索している。

③日本企業の最適な企業統治

各国で企業統治改革が推しすすめられている。当研究では, 狭義・広義, 企業内部・企業外部, 株主主権・人的経済組織を分析枠組みとして, 企業の最適な企業統治について模索している。他

V 地域の皆さんへのメッセージ

研究内容に興味をもたれた方はお問い合わせください。特にエネルギー問題について意見交換できればと思います。

I 専門分野

計量分析、情報経営、ネットワーク社会論

II プロフィール

中国大連市生まれ、早稲田大学第一理工学部卒業、国際連合事務局職員、(社)日本経済調査協議会調査部長、経済企画庁経済研究所主任研究官/長官官房参事官/物価局物価調査課長、(株)セゾン情報システムズ常務取締役、(財)環日本海経済研究所調査研究部長、(社)日本化学工業協会常務理事、2002年より星城大学 経営学部教授・高度ネットワーク社会研究所長

■担当科目：計量モデル分析論、e ビジネス論、電子マネー論、IT マネジメント、ビジネスモデル論

■所属学会：日本情報経営学会、情報通信学会、日本統計学会、景気循環学会、環太平洋産業連関学会、日本計画行政学会

III 主要著書・論文

- ・『季節変動調整法』1971年、経済企画庁経済研究所、共著
- ・『大規模計量経済モデルの構造解析・解法・推定について』1984年、経済企画庁経済研究所、共著
- ・「数量化理論について」1973年、日本経済研究センター『日本経済研究』No.2 所収、単著
- ・「産業における情報通信ネットワークの諸問題」1986年、電気通信総合研究所『情報通信の産業組織に関する研究』所収、単著
- ・「国際的産学協同ネットコミュニティの構築と戦略的活用」2007年、星城大学経営学部『研究紀要』第6号所収、単著
- ・「インターネット時代の日本語ビジネス人材」2009年、星城大学経営学部『研究紀要』第8号所収、単著

IV 研究紹介

①通信ネットワークによる国際的企業連携の調査・研究

通信ネットワークによる「ソフトウェア開発・コールセンター・データ入力・一般事務などの中国へのアウトソーシング」に関する調査・研究

②国際的産学連携ネットコミュニティの構築

上記の国際的企業連携を支援するための「国際的産学連携ネットコミュニティ」の構築とそれを活用した各種活動

③グローバル社会における日本語ビジネス人材の育成

上記の国際的企業連携を担う「ITやビジネスがわかり日本語のできる中国人人材」の育成

V 地域の皆さんへのメッセージ

地元の企業・大学と中国東北地方の企業・大学・地方政府とのネットワークを構築したいと考えています。

I 専門分野

文化経済学、地域産業論、事業型市民セクター論

II プロフィール

神戸市生まれ、京都大学経済学部卒業、京都府庁(中小企業総合指導所経営課、農林部農政課、企画調整室、東京経済情報センター所長、文化芸術室参事、商工部観光・商業課長)、(株)シンクタンク宮崎(主任研究員、理事)、(株)地域社会研究所(参与、取締役)、京都大学大学院経済学研究科修了(経済学修士)、2002年から星城大学経営学部教授

■担当科目：文化経済論、地域産業論、観光事業論、事業貢献論など（他に、客員でコミュニティビジネス論）

■所属学会：文化経済学会、日本労務学会、組織学会、経営学会、自治学会、NPO学会など

■社会的活動：東海まちづくり研究会主宰、東海市行政改革推進委員長、東海市まちづくり交付金評価委員長、その他行政・経済団体等からの依頼による助言・講演など

III 主要著書・論文

- ・「文化への公的支援」池上惇他編『文化経済学を学ぶ人のために』1993,世界思想社,所収
- ・「中小企業の金融問題」藤田敬三他編『中小企業論(第4版)』1998,有斐閣,所収
- ・『産地再生戦略～伝統的産業集積の創造的革新～』1998,地域社会研究所
- ・『京都発・商店街の将来展望』2001,京都商店街振興組合連合会
- ・『新時代の都市経営』2001,大学コンソーシアム京都（共編著）
- ・「地域産業の興亡」赤岡功他編著『経営戦略と組織間提携の構図』2005,中央経済社,所収
- ・「新時代の産官学連携」球相材料研究会編『球相炭化物材料』2006,日刊工業新聞社,所収
- ・「職人仕事の本質－仕事による人間の成長－」『立命館経営学』(48巻4号)2009,所収
- ・その他、書評（大阪経済大学中小企業経営研究所『中小企業季報』）、論説（京都新聞「経済天気図」）、受託研究報告書（行政・経済団体）など多数

IV 研究紹介

今まで、伝統産業・農業・商業・観光の振興、市町の総合計画や業界のビジョン策定、港湾や学術研究都市の整備などに、行政・シンクタンク・大学教員の立場から幅広く携わってきました。現在は、グローバルな問題を解決するためにも、日常の暮らしや地域産業の現場からの問題解決が重要との立場から、地域固有の文化的資源を生かしたまちづくりに力を注いでいます。また、まちづくりの担い手を育成するため、市民セクターの育成を図る「社会起業家塾」を地域の皆様とともに開設できないかなどと、夢想しています。

V 地域の皆さんへのメッセージ

知多地域の振興には、新たな産業発展のビジョンを共有化し、地域がイノベーションを産み出す母体となる「産業クラスター化」と「プラットフォームづくり」が必要と考えます。そのため、市民・企業・行政・経済団体・大学などの有志が一堂に会し、本音の議論ができる場として「東海まちづくり研究会」を月一回のペースで星城大学で開催しています。ご関心をお持ちいただいた方のご参加を歓迎しますので、お気軽にお問い合わせください。

I 専門分野

保健体育科教科教育(小学校・中学校)、スポーツ行政、教育方法

II プロフィール

愛知県知多郡横須賀町養父生まれ、愛知教育大学卒業、愛知教育大学附属名古屋小学校、名古屋市立稲西小学校校長、同八熊小学校校長、同藤が丘小学校校長、名古屋市教育委員会主任指導主事(学校体育・スポーツ振興)、2006年から星城大学経営学部特任教授

■担当科目：保健体育教育法、スポーツ行政論、教育制度論、教育方法論、スポーツ実技(硬式テニス・スキー)

■所属学会：日本体育学会、スポーツ教育学会、日本教科教育学会、愛知教育大学体育学会(副会長)

■社会的活動

文部省学習指導要領調査研究協力者(小学校体育)、文部科学省体育実技中央講習会(講師)、名古屋市小中学校長会名東区会長、名古屋市名東区社会福祉協議会(理事)、東海市総合型スポーツクラブ設立準備委員会(委員)、知立市立猿渡小学校体づくり指定校(助言者)、愛知県小・中学校体育担当者研修会(講演)、名古屋西幼稚園(理事)、名古屋市教員免許更新講習(講師)

III 主要著書・論文

- ・「小学校学習指導要領解説体育編」1999年、東山書房、共著
- ・「学校体育実技指導資料体づくり運動」2000年、文部省大修館書店、共著
- ・「すぐ使える体ほぐしの運動136選」2000年、明治図書、共著
- ・研究授業シリーズ小学校体育科1～3年編、4～6年編「教師の押さえどころ勘どころ」2003年、明治図書、単著
- ・心と体の関連型遊びとしての「体ほぐしの運動」の特性に関する一考察2003、日本教科教育学会誌第26巻第3号、単著

IV 研究紹介

①平成20年度文部科学省委託事業 体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動のあり方に関する調査研究(名古屋市教育委員会主催の共同研究)

②名古屋市体育研究会 共同研究助言者

「体育学習で何を、どのように身に付けさせるか」をテーマにH17～20年度間継続的に研究してきた。その総括的な発表を20年7月に名古屋市体育研究会全国発表会で行った。

③学校での“体づくり”の必要性と実践方法～新しい体育授業づくり・運動環境づくり～発行20年10月 誌名 知立市立猿渡小学校研究紀要

知立市教育委員会研究委嘱校として2年間にわたる研究成果の発表会(助言者)をした。

V 地域の皆さんへのメッセージ

現在、東海市総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会の委員をしていますが、東海市に住民のための住民による新たなスポーツクラブが誕生することに星城大学生と一緒に貢献したいと考えています。学校体育と地域スポーツが一体化しないと、子どもだけでなく成人や高齢者の健康は維持増進できません。着実に地域とともにスポーツ環境の向上に努めます。

I 専門分野

応用物理学 (遠赤外光学)

II プロフィール

三重県松阪市生まれ、名古屋大学工学部卒業、名古屋大学大学院工学研究科博士課程修了 (工学博士)、2002 年から星城大学経営学部教授

■担当科目：物理的思考、情報処理概論、情報処理演習

■所属学会：応用物理学会、日本光学会

■社会的活動

地域団体主催の情報処理関係の講習会講師 3 回

III 主要著書・論文

・『光測定ハンドブック』1994 年、朝倉書店、共著

・「Far IR Transmission Spectra of an YbaCuO Thin Film Sputtered on an MgO Single Crystal」
1991 年、Infrared Phys. Vol. 31, No. 5 共著

IV 研究紹介

①大学に関する教育研究

大学における教育の形態や内容について、教育効果の観点から常にその改善に取り組んでいる。

V 地域の皆さんへのメッセージ

大学の地域貢献は大きな社会的使命と認識しております。教育全般や情報処理に興味を持たれた方はお問い合わせください。

北野 達也 (きたの たつや) 経営学部 教授

I 専門分野

医療経営管理、地域医療（健康増進、自治体病院再生など）、医療教育、国際医療協力、医療安全・医療の質等

II プロフィール

福岡県北九州市生まれ、小・中・高校時代を東海市で過ごす。九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻修士課程修了（医療経営・管理学修士）。九州大学大学院医学系学府環境社会医学専攻医療システム学講座医学博士課程。各病院において医療安全管理部部長（Patients Safety Manager として医療事故調査、院内安全管理体制再構築。）、財団法人日本医療機能評価機構、医療事故防止センター初代医療事故防止事業課長、病院長補佐（院内質改善、経営改善等病院再建）歴任。現在、星城大学経営学部健康マネジメント系医療マネジメントコース主任・教授、星城大学大学院健康支援学研究所医療安全管理学講座兼任。兼職にて宏潤会大同病院医療安全管理顧問、自治体病院再建、医療機関5施設において医療経営・管理顧問、オブザーバー、富山大学医学部非常勤講師、富山大学大学院医学薬学研究科非常勤講師、九州保健福祉大学保健科学部非常勤講師など務める。

■役員等：医療の安全に関する研究会（理事）、日本医工学治療学会（評議員）、神戸医療経営学研究会研究員、NGO 国際医療協力プロジェクト（副理事長）、宏潤会大同病院（医療安全管理顧問）ほか。

■担当科目：病院管理論、医療安全管理学、地域医療学、医療環境教育学、患者安全管理学、医療政策学、医療経営学、医療システム論、医療コーディネート論、医療管理学、社会保障論、ほか。

■所属学会：医療の安全に関する研究会（理事）、日本医療経営学会、日本医療・病院管理学会、医療の質・安全学会、日本医学教育学会、日本医工学治療学会（評議員）、日本医療機器学会（評議員）、神戸医療経営学研究会研究員、モデル&シミュレーション医学教育研究会、財団法人国家基本問題研究所 ほか。

■社会的活動：NGO 国際医療協力プロジェクト（副理事長）

- ・ウクライナ共和国ジトミル州 国立ジトミル技術工科大学学長より感謝状授与,2005.2
- ・ウクライナ共和国ジトミル州ジトミル市長より継続的医療支援に対する感謝状授与,2005.2
- ・市民公開講座「市民のための病院・診療所の選び方、かかり方」知多市、名古屋市、徳島県などで招聘講演。
- ・全国の国立病院機構、県立病院、医療センター、市民病院などで「患者安全・医療の質の向上」招聘講演。

取材協力・中日新聞「研究室発」研究室、医療マネジメントコースについて取材,2007. 8. 31

- ・中日新聞「東海市官・民病院を統合へ」医療経営に詳しい星城大学北野先生の話 1 面,2007. 10. 31
- ・中日新聞「核心：全国初 官民病院統合へ～専門家黒字化には懐疑的」北野先生の話 3 面,2007. 11. 8
- ・NHK名古屋放送局「東海市民病院統合のゆくえ～」ほっとイブニング!」医療経営改善に対するコメント,2008. 2. 27. 18:10～18:30 放送

■科研費申請等（直近）：国立大学法人富山大学大学院医学薬学研究部医学教育学講座「医療安全における医学教育研究」共同研究報告,北野 達也, 招聘講師,2008. 10. 29

愛知県研究助成「大学生メタボリックシンドローム対策調査・啓発事業」主任研究者：北野達也 2008. 9～ほか。

III 主要著書・論文

- ・東京都主催医療安全管理体制支援事業「医療安全管理者養成講座テキスト」,北野 達也, P20-P53,2008. 12. 4
- ・「医療におけるコミュニケーションと医療安全～患者安全管理の手法～」北野 達也,安全医学,Journal of Medical Safety,Vol. 4(2):P17-P21,2007. 11. 30 ほか。

IV 地域の皆さんへのメッセージ

研究内容に興味を持たれた方、市民公開講座、健康増進普及活動、自治体病院支援など積極的に対応します。

I 専門分野

情報ネットワーク、経営工学、情報社会学

II プロフィール

滋賀県米原市生まれ、大谷大学文学部卒業、神戸大学大学院留学、ノースウエスタン大学客員研究員、滋賀大学教授、龍谷大学教授 を経て 2003 年から星城大学経営学部教授へ就任

■担当科目：情報ネットワーク論、ビジネスモデル・コンピューティング、情報教科教育、
専門ゼミ 3 年・4 年、文教ゼミ 2 年

■所属学会：経営工学会、経営情報学会、情報処理学会、工業経営学会

■社会的活動

米原市東草野まちおこし懇話会座長、米原市社会福祉協議会委員、同市人権保護委員会委員、
米原市水源の里条例策定委員、農林水産省指定・米原市「あがいえけよ」協議会長、各種セミナーにおける講演など

III 主要著書・論文

1. 『現代工業経営学』昭和 57 年、有信堂高文社刊、共著
 2. 『企業情報システム－高度情報化の展開とその対応』平成元年、杉山書店刊、単著
 3. 『経営工学－経営情報学講座第 9 巻』平成 11 年、オーム社刊、単著
 4. 『新しい情報ネットワーク教科書』平成 20 年、オーム社刊 共著 など多数。
- ・「多企業間サプライチェーンにおける情報システム統合の課題」2009 年、星城大学経営学部『研究紀要』第 7 号所収、単著
 - ・「グローバル・システム統合環境における情報セキュリティ管理の課題」2009 年、星城大学経営学部『研究紀要』第 8 号所収、単著

IV 研究紹介

①地域資源の発掘と評価に関する調査研究

地元の住民および NPO との協働により、米原市の地域資源（滝の開発やそば作りによる特産品）を発掘や、水源の里条例の制定などで、再評価するための実現活動を行った。

②都市連携によるブランド力形成に関する研究

国からの委託により、都市間連携による地域ブランド力形成のための地域力活性化事業に取り組んでいる。

③企業協同組合や都市行政の情報ネットワーク構築の研究

企業の協同組合事業のネットワーク構築、行政の情報ネットワーク構築、通信事業の回線効率化利用などの研究を多く手がけてきた。

V 地域の皆さんへのメッセージ

研究内容に興味を持たれた方はお問い合わせください。共同研究などにも積極的に対応します。

I 専門分野

考古学、文化人類学

II プロフィール

春日井市在住、南山大学文学部人類学科卒業、南山大学大学院文学研究科博士課程単位修得退学、1985年から(財)愛知県埋蔵文化財センター調査課勤務、1993年から名古屋明德短期大学国際文化科専任講師、1997年同助教授、2003年から星城大学経営学部助教授、2008年同教授

■担当科目：考古学、博物館学、文化教養ゼミ、ゼミナール(観光まちづくり)

■所属学会：日本考古学協会、日本西アジア考古学会、埋文写真研究会、草原考古研究会、等

■社会的活動

春日井市文化財保護審議会委員、都市景観審議会委員；東海市文化財調査委員；愛知県史調査協力員、あいちシルバーカレッジ講師；国士舘大学イラク古代文化研究所共同研究員

III 主要著書・論文

・「野外考古学におけるデジタルカメラの活用について—オラーン・オーシグ I 遺跡の発掘調査より—」『伊藤秋男先生古希記念考古学論文集』pp.345-360 伊藤秋男先生古希記念考古学論文集刊行会 2007年

・「知多半島のマンボ(1)」『研究報告 とうかい』創刊号 pp.81-89 東海市教育委員会 2007年

・「知多半島のマンボ(2)」『研究報告 とうかい』第2号 pp.50-53 東海市教育委員会 2009年

IV 研究紹介

①地域資源の調査研究

知多半島におけるマンボ(横井戸)の悉皆調査実施中

②日本の古墳文化に見られる騎馬遊牧民族文化の研究

草原考古研究会(事務局：横浜ユーラシア文化館内)の一員として、文部科学省研究助成を得て、モンゴル国オラーン・オーシグ I 遺跡で騎馬遊牧民族の墳墓の発掘調査(2003年—2006年)およびイラン、トルコ、シリアで関連資料調査(2007年)(研究代表者：高濱 秀金沢大学教授)

③西アジアにおける葬制の研究

国士舘大学イラク古代文化研究所共同研究員としてキシユ遺跡の調査研究(調査はイラク戦争によって中断し、以後、イラクの政情不安のため中断したまま)

V 地域の皆さんへのメッセージ

マンボの起源は西アジアへとつながる可能性があります。大学では観光まちづくりのゼミナールを担当し、遺跡や史跡、文化財の活用によるまちづくりについて学んでいます。研究内容に興味を持たれた方はお問い合わせください。

I 専門分野

流通論、まちづくり、地域活性化、農商工連携支援（中小企業診断士）

II プロフィール

石川県生まれ、関西大学商学部卒業、大阪府立産業開発研究所主任研究員、沖縄大学教授、2002年から星城大学経営学部教授

■担当科目：経営学概論、流通基礎論、まちづくり論、中小企業経営論

■所属学会：日本中小企業学会、日本都市計画学会、経営教育学会、日本経営診断学会、経営情報学会、ビジネスマネジメント学会

■社会的活動

東海市中心市街地活性化基本計画策定委員会委員長、東海市公の施設の指定管理者選定委員会委員長、大阪府商工会問題調査研究委員会委員長など各種委員会委員を始め、各地の中心市街地活性化基本計画の策定や地域活性化計画・ビジョンの策定、まちづくりなどの調査研究に携わっている。

III 主要著書・論文等

- ・『販売戦略ノート』、『販売促進のアイデア・事例集』、『卸売マーケティング』、『現代企業総論』等の書籍
- ・「地域商業の機能強化と小売商業政策の課題」、「TMOの現状と課題」等の論文

IV 研究紹介

①商工会課題解決研究事業

商工会を取り巻く環境変化に対応すべく商工会の本来の機能・役割を原点に戻って見直し、「商工会の将来について」求められる機能・役割を果たすべく商工会職員の意識改革を含めたあり方について基礎的調査と研究を行っている。

②農商工連携による地域活性化に関する研究

全国中小企業団体中央会の委託事業として各地で実施している「農商工連携等支援専門家の育成」研修会に参加し、地域資源を活用した地域活性化の可能性の調査研究を行っている。

V 地域の皆さんへのメッセージ

地域に積極的に出かけてフィールドワーク主体の調査研究を行っている。ゼミの学生やまちづくり、イベント等に興味を持つ学生とともに現場に出かけ地域の活性化に取り組んでいる。「日本ど真ん中まつり」の名古屋市中川区荒子公園会場の運営もその一つである。

I 専門分野

広告論、広告表現論、マーケティング論、消費者行動論

II プロフィール

神奈川県大磯町出身、(株)博報堂シニアプロデューサー、九州産業大学大学院芸術研究科博士後期課程修了、博士(芸術)、2007年から星城大学経営学部教授

■担当科目：広告論、マーケティング、マーケティング・リサーチ、消費者行動論

■所属学会：日本広告学会(論集編集委員・クリエイティブ委員)、日本デザイン学会、芸術工学会

■社会的活動

総理府・国政に関する広報委員会委員、JFMステレオCM広告賞審査員、フジサンケイ広告大賞審査員、仙台広告賞審査員長、藤枝市企業誘致審議会委員長、藤枝商工会議所未来塾講師、FM静岡(K・M I X)番組審議委員会委員、K・M I X・CMコピーコンテスト特別審査員など

III 主要著書・論文

- ・『マーケティング・コミュニケーション』2009年、清水公一編著、五紘舎、共著
- ・「IT時代における企業イメージの構築」2001年、日本広告学会『広告科学』第43集所収、単著
- ・「企業不祥事と企業表現」2002年、日経広告研究所『日経広告研究所報』第207号所収、単著
- ・「企業理念とブランド構築」2006年、日本広告学会『広告科学』第47集所収、単著

ほか

IV 研究紹介

①「お詫び広告」の調査研究

企業不祥事発生時における日米の「お詫び広告」を収集し、その表現手法等の分析を行っている。日本における「お詫び広告」の歴史も合わせて研究している。

②企業イメージとブランド構築についての研究

ブランド構築の構成要因の分析から、構築概念「CPとPP」を理論化し、提唱を行った。

V 地域の皆さんへのメッセージ

・広告・広報・マーケティング関連にて専門家の意見をお聞きになりたい方、企業の危機管理・ブランド構築等に興味を持たれた方はお問い合わせください。

I 専門分野

人的資源管理論、人材育成論、リーダーシップ論など

II プロフィール

2003年～星城大学経営学部教授

■担当科目：人的資源管理論、人材育成論、リーダーシップ論、モチベーション論、共生経営論

■所属学会：日本労務学会（理事）、日本経営学会、人材育成学会

III 主要著書・論文

- ・『人的資源管理の基礎と展開』2005年、中央経済社、単著
- ・『日本企業の創造性』2008年、三恵社、共著
- ・「カジュアルワーカーの2極化」2005年、中央経済社『労務管理と人的管理の構図』所収
- ・「パートタイム労働の基幹労働力化の背景と方向」1997年、『大原社会問題研究所雑誌』No469
- ・「戦略的人的資源管理を生かす従業員の創造性について」2007年、『星城大学研究紀要』
第3号
- ・「経営戦略における長期雇用の役割と従業員の創造性」2008年、『星城大学研究紀要』
第5号
- ・「創造的モチベーションの要因について」2009年、『星城大学研究紀要』第7号

IV 研究紹介

① 非正規労働者に関する研究

近年増加しつつある非正規労働者の現状、背景、問題点を研究している。

② 従業員の創造性に関する研究

企業の戦略は従業員の創造性によることが多い。従業員の創造性発揮のモチベーションや条件、組織の仕組みなどについて研究している。

V 地域の皆さんへのメッセージ

研究内容に興味のある方は、お問い合わせ下さい。

I 専門分野

経営学、組織論、企業文化論

II プロフィール

1958年台湾・台北市生まれ。京都大学経済学部卒業、同大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。三和総合研究所（現「三菱UFJ Research & Consulting(株)」）金融戦略部研究員。同社の国際経営開発部、企業戦略室などにて勤務。2002年4月から星城大学経営学部教授。

■担当科目：グローバルマネジメント、ベンチャービジネス論、海外ビジネスセミナー、国際ビジネス実践セミナー、文化教養ゼミ、ゼミナール等

■所属学会：日本経営学会、組織学会、日本労務学会、日本台湾学会、日本中国経営管理学会

■社会的活動：留日名古屋華僑総会理事、セムイ学園東海医療専門学校顧問、道恒環保科技（北京）有限公司監査役、株式会社松本微生物研究所取締役、国際合作映画「案山子」アソシエイトプロデューサー（2001年）など

III 主要著書・論文

■著書：『労務管理と人的資源管理の構図』（共著、2005年、中央経済社）、『活路を拓く台湾産業』（共著、2002年、財団法人交流協会）、『アジア諸国におけるベンチャー企業の動向と課題』（共著、2001年、社団法人アジア社会問題研究所）、『1997年日本と世界経済の焦点』（編著、1997年、台湾聯経出版事業公司）、『中国東北地方の発展方向』（共著、1995年、日中東北経済開発協会）、『エレガントな時代の労働と生活』（共著、1993年、法律文化社）。

■論文・講演：「中台で見た産学連携の発展と課題」2009年11月於星城大学、「環境保全と教育事業は今後も中国の有望なビジネス分野であり続ける」2009年みずほ銀行『みずほ中国 法務・税務・労務ヘッドライン』No. 3、「日本の大学国際化と国際教育の発展趨勢」2008年『東亞論壇季刊』No. 462、「近年における日本企業の対中企業戦略の変化と動向」2005年・星城大学『研究紀要』No. 2、「中国の私営企業とベンチャービジネス - 躍進する私営企業とその課題 -」2004年・全国日本学士会『アカデミア』No. 86、「日本企業の対中企業戦略」2002年於京都大学など。

IV 研究紹介

- ①華人経済圏における日系企業の進出戦略と実務
- ②台湾の非典型的雇用に関する研究
- ③日・台・中の高度教育研究機関による複合的・有機的連携関係に関する調査研究

V 地域の皆さんへのメッセージ

当方の研究内容の詳細は次のJ-GLOBALのウェブサイトを参照して頂きたい。

http://jglobal.jst.go.jp/detail.php?JGLOBAL_ID=200901091433423295&t=1&d=1&q=6000000228 同内容に興味を持たれた方はお問い合わせ下さい。

また、華人経済圏における進出関連の実務経験も持っているため、共同研究のみならず、関連する実地調査などにも対応することができます。本学の国際ビジネスコース「国際ビジネス実践セミナー」にて、海外の第一線で活躍されている企業の経営者や管理者を招いて学生に実践的な講義を行って頂いているので、若者に国際経営の現実を語って頂ける方は是非ご一報下さい。

I 専門分野

環境情報論、国際政治学、地域研究 (ヨーロッパ)

II プロフィール

静岡県沼津市生まれ、立命館大学大学院 国際関係研究科博士課程修了、2000年～2002年立命館大学国際関係学部助手、2003年から星城大学経営学部講師、2008年から経営学部准教授。

■担当科目：環境情報論、環境経営論、日本経済論、ゼミナール、総合ことば演習等

■所属学会：環境情報科学センター、組織学会、日本情報経営学会

■社会的活動

東海市環境審議会委員、公害防止協議会委員、緑化審議会委員

III 主要著書・論文

- ・ 「「場」を動かすナレッジ・イネープリングーフィンランドの産業クラスターモデル」、2005年『2006年度組織学会年次大会報告要旨集』所収、共著(燈田順子、天野圭二)
- ・ 「欧州共通運輸政策における自然環境情報の有効利用への課題」2006年、安斎育郎教授退職記念論集編集委員会編『平和を拓く』所収、単著
- ・ 「e-Universityにおける教学用ICTシステムの支援ツール」2009年、星城大学経営学部『研究紀要』第8号所収、単著

IV 研究紹介

①ヨーロッパにおける酸性降下物対策

EUの共通運輸政策における酸性降下物対策を事例に、環境問題の政策決定者が、問題の原因を把握した上で対策可能な範囲を認識し、有効な対策を講じるためには、どのような条件が満たされる必要かという点について、特に情報共有に焦点を当てて検討している。

酸性降下物問題については、移動排出源に対する議論が未だ不十分であり、移動排出源と関わりの深い全域的な運輸政策を検討対象としたところが特徴である。(個人研究、1996-)

②北ヨーロッパにおける地域産業振興

知識経済基盤社会への転換に向けて、北欧の中小企業政策を焦点に、知識イノベーションと商業化に関する「産官学連携システム」について調査を実施し、同地域の中小企業(SME)を取り巻くイノベーション環境の整備状況と、研究開発の商業化の現状を、関係者への直接インタビューなどの手法を用い、その構造的特徴を明らかにする。(国内共同研究、2004-)

V 地域の皆さんへのメッセージ

マクロな視野から地域経済の発展と自然環境との関係性の変化を見ています。研究内容に興味を持たれた方はお問い合わせください。ゼミ生による学外発表の機会も積極的に探しております。産学官連携の交流会等での学生による報告実績もありますので、お気軽にお問い合わせください。

I 専門分野

思想、言語、キリスト教、英語 (英語素材に見られる宗教的バイアスの検討)

II プロフィール

愛知県名古屋市生まれ、南山大学外国語学部英米学科 (学士)、ダーラム大学大学院 (修士)、ニューカッスル大学現代言語研究科専任講師 (日本語)、名古屋明德短期大学英語科助手・講師・助教授、星城大学経営学部助教授を経て、2007年から星城大学経営学部准教授

■担当科目：英語Ⅲ・Ⅳ、総合英語Ⅰ・Ⅱ、英語討論、TOEIC 英語Ⅱ、言語文化、文化教養ゼミⅠ・Ⅱ、社会探索ゼミ

■所属学会：The British Association for Applied Linguistics、The Japan Association of Language Teachers、外国語教育メディア学会、日本英語学会、日本言語学会

■社会的活動

「ハリリー・ポッターとモラルをめぐる議論」(知多市ふれあいプラザ公開講座 2005年2月10日)

III 主要著書・論文

- ・『『レフト・ビハインド』と千年期前再臨説とアメリカ保守派についての覚書』『星城大学 人文研究論叢 Vol.5』2009年
- ・『『レフト・ビハインド』に見られる反キリスト像についての覚書』『星城大学 人文研究論叢 Vol.4』2008年

IV 研究紹介

英語素材に見られる宗教的バイアスを検討しています。小説・映画・教科書等に用いられる英語素材の中に見られる、明らかな、あるいは、隠された形での宗教的スタンスを考察することにより、そこから、これら英語素材を生み出した社会を、宗教という枠組みと関連づけながら描き出すことを試んでいます。

例えば、外国語教育メディア学会 (LET) 第49回 (2009年度) 全国研究大会で口頭発表しました「TOEIC®テスト問題集に見られる英語素材の分析 — 教養教育という視点から —」では、TOEIC®テスト問題集に見られるアメリカ市民宗教の徳性について言及しました。また、『星城大学 人文研究論叢 Vol.5』に執筆しました「『レフト・ビハインド』と千年期前再臨説とアメリカ保守派についての覚書」では、小説『レフト・ビハインド』がベースとしているキリスト教千年期前再臨説を通して、アメリカ保守派を描き出すことを試みました。

V 地域の皆さんへのメッセージ

研究内容に興味を持たれた方はお問い合わせください。キリスト教福音主義、メシアニック・ジューに興味がおありの方からのご意見・情報交換もお待ちしております。

I 専門分野

言語学、日本語学、日本語教育

II プロフィール

愛知県名古屋市生まれ、南山大学文学部卒業、名古屋女子大学短期大学部英語科助手、南山大学大学院外国語研究科修士課程修了(日本語教育修士)、2003年から星城大学経営学部講師、2008年から星城大学経営学部准教授

■担当科目：日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語スピーチ、異文化コミュニケーション

■所属学会：日本言語学会、日本文法学会、日本語教育学会、異文化コミュニケーション学会

III 主要著書・論文

- ・”Operator Movement and Passivization in Japanese”『南山大学日本文化学科論集』
2001年、創刊号所収、共著
- ・「知っている」の否定形」2005年、星城大学『人文研究論叢』第1号所収、単著
- ・「日本語の空の機能範疇」2008年、星城大学『人文研究論叢』第4号所収、単著

IV 研究紹介

①日本語の関係節の派生に関する研究

日本語の関係節には **Operator movement** による派生と **R-marking** による2種類の派生があるとした。それぞれの派生にはそれぞれの制約がかかるので、日本語の関係節の容認の可否は複雑に見えるが、一定の法則に従って派生していることを示した。

②日本語の受動文の派生に関する研究

英語の受動文はA移動により派生すると言われているが、日本語の受動文は日本語の関係節と同様の **Operator movement**(A'移動)による派生と **R-marking** による派生があることを示した。

③日本語の機能範疇に関する研究

日本語は膠着言語であり、語彙範疇にさまざまな機能範疇が結合して語が形成される。これらの機能範疇の特質や結合の規則を明らかにして、日本語の機能範疇の結合の実態を明らかにすることを目指している。

V 地域の皆さんへのメッセージ

星城大学の留学生に日本語を教えています。何気なく使っている日本語を外国人にわかるように説明するのはとても難しいことです。知っているはずの日本語について、数々の新しい発見があります。日本語教育、日本語学、留学生との交流に興味のある方はご連絡をください。

I 専門分野

都市情報、都市計画、交通工学

II プロフィール

京都府京都市生まれ、京都大学工学部卒業、京都大学大学院工学研究科修士課程修了（工学修士）、岡山大学助手（工、理工学部）、岐阜（教育）聖徳学園大経済情報学部助教授、2002年から星城大学経営学部助教授を経て現在准教授

■担当科目：経営（OR）科学、生活情報論、都市情報論、都市計画論、都市交通論、マルチメディア情報論

■所属学会：情報経営学会、土木学会、日本都市計画学会

■社会的活動

東海市マスタープラン委員、長良川フォーラム（岐阜市）

III 主要著書・論文

・『よくわかる計画数学』1998年、共著

IV 研究紹介

- ① ICカードの利用に関する調査研究
- ② 地域カードに関する研究
- ③ 無線LANの利用と応用に関する研究
- ④ 地域の活力・景観・風景・風土に関する研究

V 地域の皆さんへのメッセージ

もともとは土木の出身です。都市計画、交通計画が専門でした。景観10年、風景100年、風土1000年といいますが、風土に興味があり、縁があって、今は情報が専門です。1000年は“志”に置いておいても、風景、景観を目指しています。そのような「計画」がありましたら、ぜひ参画させていただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

また、情報のほうでも、最近ではICカードに関心があり、研究しています。実際に導入される際には是非お声掛けいただきますようお願いいたします。

I 専門分野

社会システム工学（シミュレーションによるシステムの解析）、経営工学（OR 等）、生産管理（主に Just-in-time 生産方式）

II プロフィール

愛知県西尾市生まれ、名古屋大学経済学部卒業、名古屋大学大学院経済学研究科博士課程修了（経済学博士）、同研究科研究員を経て、2006 年 10 月から星城大学経営学部講師

■担当科目：情報システム論、インターネット基礎論など ICT 関係の科目を担当

■所属学会：日本情報経営学会（本部幹事（組織および会員管理担当））

日本経営システム学会（評議員、中部支部役員）、日本経営工学会

III 主要著書・論文

- ・『シミュレーション—Arena を活用した総合的アプローチ(第 4 版)』2007 年、コロナ社、翻訳【海外 MBA でのシミュレーションテキストとして多数の採用実績がある *Simulation with Arena* (Kelton 他著)の翻訳書。日本語による唯一の Arena テキスト】
- ・”Module-based modeling of flow-type multistage manufacturing systems adopting dual-card Kanban system”, 2004, *Proceedings of the 2004 Winter Simulation Conference* 所収、共著【かんばんシステムを導入した生産システムのシミュレーションモデルを容易に作成できるモジュールを開発】
- ・”Optimization of a number of containers for assembly lines: the fixed-course pick-up system”, 2006, *International Journal of Simulation Modelling* Vol.5(4)所収、共著【JIT 生産方式で活用されている水すまし作業による組立ラインへの部品供給をシミュレーション実験により最適化】

IV 研究紹介

システムシミュレーション手法を活用して、現実のシステムをコンピュータ上に再現し、様々な問題をコンピュータ上での実験を通して解決したり、新しい業務手順などを提案する研究を行っている。具体的には、生産ラインの最適な仕掛在庫量を探索する手順の提案や、JIT 生産方式のコンピュータモデルを簡単に構築できるツールの開発に従事。参画プロジェクトには、国際空港の旅客流動解析や大規模チェーンストアの駐車場開発などがある。

V 地域の皆さんへのメッセージ

生産や物流に関する問題を解決したい、新しい機械を導入したい、従業員のシフトを組み替えてみたい、などなど、ビジネスプロセスのすべてがシミュレーションの対象です。サービス業にも適用可能です。長年の業務経験と科学的な知識をミックスして、よりよいビジネスプロセスを一緒に作りましょう。

I 専門分野

高齢者健康支援学, 老年期作業療法学, 社会疫学, 認知症予防

II プロフィール

広島県出身, 1978年日本福祉大学社会福祉学部卒業, 1982年国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院卒業, 1982年から名古屋市厚生院, 有馬温泉病院などで勤務, その後2003年茨城県立医療大学保健医療学部助教授, 2005年星城大学リハビリテーション学部教授, 博士(社会福祉学)

■担当科目: 老年期作業療法学, 身体障害作業療法学, 作業療法学概論など

■所属学会: 日本作業療法士協会, 日本公衆衛生学会, 日本老年精神医学会, 日本認知症ケア学会, 日本老年社会科学会など

■社会的活動: 日本認知症ケア学会評議員, 日本老年精神医学会他職種協働推進委員会委員, 日本作業療法士協会養成教育のあり方委員会委員長

III 主要著書・論文

- ・「認知症の作業療法」医歯薬出版, 編著, 2009.
- ・「検証健康格差社会 介護予防に向けた社会疫学的大規模調査」, 医学書院, 分担執筆 2007.
- ・「認知症ケアの実際Ⅱ各論」ワールドプランニング, 分担執筆, 2004年
- ・竹田徳則, 近藤克則, 平井寛: 心理社会面に着目した認知症予防のための介入研究ーポピュレーション戦略に基づく介入プログラム理論と中間アウトカム評価ー. 作業療法 28:178-186, 2009. (査読有)
- ・竹田徳則: ポピュレーション戦略による認知症予防. 認知症ケア事例ジャーナル 1:437-444, 2009.
- ・竹田徳則: 介護予防, 認知症. 作業療法ジャーナル 42:665-669, 2008.
- ・竹田徳則, 近藤克則, 平井寛, 村田千代栄: 地域在住高齢者の認知症発症と心理・社会面との関連. 作業療法 26:55-65, 2007. (査読有)

IV 研究紹介

現在, 心理社会面に着目した介護予防・認知症予防として, 愛知県武豊町で「憩いのサロン」を活用した介入研究に取り組んでいる.

V 地域の皆さんへのメッセージ

「認知症にならずに健康で長生きの秘けつ」をお伝えしています.

I 専門分野

辺境文化研究、音楽評論、美術評論、その他。

II プロフィール

東京生まれ、早稲田大学教育学部卒業、同大学院文学研究科史学(西洋史)専攻修士課程修了、その間早稲田大学第一・二文学部副手、ブルガリア留学。ベースボールマガジン社嘱託(ライター)、東海大学平和戦略国際研究所助教授などを経て、2007年から現職。

■担当科目：文化教養ゼミナール、政治学、社会学、日本文化論、総合ことば演習。

■所属学会：早稲田大学史学会など。

■社会的活動：●東海市平洲会評議員●トヨタ財団「アジア隣人プログラム」2009年『タイとラオスにおける伝統的壁画技法の再構築に向けてのネットワークづくり——パタナシン大学の研究・教育システムの活用をとおして』に参加●国際交流基金の助成事業として日本との交流が疎なヨーロッパの国々で「日本文化週間」を主宰●クラシック音楽会の企画・司会 など。

III 主要著書

- ・『ヨーロッパ辺境紀行』1993年、恒文社、単著
- ・『日米安保と沖縄問題』1997年 社会評論社、共著
- ・『オーストリア 統合その夢と現実』2001年、東海大学出版会、共著
- ・『ドラッグ：新しい脅威と人間の安全保障』2003年、東海大学出版会、共著
- ・『日露オーラルヒストリー はざまで生きた証言』2007年、彩流社、共著 その他多数

IV 研究紹介

①ロシア極東ウラジオストックの旧日本人社会に関する調査研究

地元のロシア国立極東大学の教官との共同調査などにより、明治から大正期にかけての日本人社会を研究、論文として纏め、また中日新聞(東京新聞)文化欄に連載した。

②沖縄における文化の多様性に関する研究

同地域を、日本とアジアの結節部として捉え、21世紀アジアの平和と安定の礎となるための方策を考える。これも論文や新聞・雑誌などに発表した。

③戦争ジャーナリズムに関する研究

沖縄戦で死んだアメリカの著名な従軍記者アーニー・パイルの足跡を追い、「大本営発表」に陥らない戦時報道のあり方を検証。これまた雑誌などで発表。

④グラゴール文字を用いた宗教合唱曲の研究

アドリア海に浮かぶクロアチア領フバル島に伝承するグラゴール・ミサ曲の研究を通して、中世におけるイタリアと周辺国間の文化の伝播を調べる。

V 地域の皆さんへのメッセージ

星城大学祭「星祭」の一環として、2008年は「短歌コンクール&シンポジウム」を、また今2009年度はシンポジウム「わが町の国際交流」を、パネリストに女優の島田陽子さんらを招き、東海市・同国際交流協会・中日新聞社の後援を頂戴し、市民の皆様多数のご来駕を戴いて行った。大学は学生・教職員・地域市民による「知遊空間」との認識に立ち、これからも地域の啓発に努める所存であります。

I 専門分野

哲学、倫理学

II プロフィール

愛知県名古屋市生まれ、京都大学文学部卒業、京都大学大学院文学研究科（哲学専攻）博士課程単位取得退学（文学修士）、鹿屋体育大学助教授、名古屋明德短期大学教授を経て2002年から現職

■担当科目：哲学、倫理学、文化教養ゼミⅠ・Ⅱ

■所属学会：日本哲学会、関西哲学会、京都哲学会

■社会的活動

東海市情報公開審査会委員、星城大学公開講座・知多市連携講座における講演など

III 主要著書・論文

- ・『西洋哲学史概説』1986年、有斐閣、共著
- ・『現代思想の境位』1988年、白石書店、共著
- ・『心と認識－実在論的パースペクティブ』1997年、昭和堂、共著
- ・『百歳を過ぎても「寝たきり」から脱け出せる』2009年、一粒社、単著

IV 研究紹介

①知覚理論の研究

われわれは外的世界をどのようにして知なのか — デカルト、ロック、バークリーら近代の哲学者たちにとって中心問題の一つであった知覚の理論を、現代の心理学の成果をも考慮しながら検討してきた。

②超高齢者にとってのリハビリテーションの意味

百歳を過ぎて「寝たきり」になり、百一歳でリハビリを受けて「寝たきり」から脱け出した祖母の経験をもとに、超高齢の患者にとってリハビリがどのような意味をもっているか、患者の家族の立場から考えている。

③私たちの社会の高齢者観の問題

私たちのいなく高齢者観が高齢者の医療や福祉の充実を妨げ、高齢者の幸福追求を阻んでいるのではないか、それは倫理的な問題をはらんでいるのではないか、という問題意識から研究を進めている。

V 地域の皆さんへのメッセージ

研究内容に興味を持たれた方はお問い合わせください。地域の学習会にも都合がつけば参加しますので、声をかけてください。

I 専門分野

作業療法学, 体力科学, 健康支援学

II プロフィール

1967年愛知県生まれ

国立療養所東名古屋病院付属リハビリテーション学院卒業

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科博士課程修了 (博士: 生体情報)

星城大学リハビリテーション学部勤務 (2003年～)

■担当科目: 運動学, 運動学実習, 臨床運動学, 作業療法評価学実習, 卒業研究, 臨床実習

■所属学会: 日本作業療法学会, 日本体力医学会, International Society for Aging and Physical Activity, American College of Sports Medicine.

■社会的活動

東海市健康づくり推進会議委員, NPO 法人アクティブエイジング研究会理事 他

III 主要著書・論文

- Threshold of lower body muscular strength necessary to perform ADL independently in community-dwelling older adults. *Clinical Rehabilitation* 22, 902-910, 2008.
- 地域在住高齢女性の下肢筋力 - 加齢に伴う変化 -. *作業療法* 28, 565-577, 2009.
- Effects of combined balance and resistance exercise on reducing knee pain in community-dwelling older adults. *Physical & Occupational Therapy in Geriatrics*, in press, 2009 他

IV 研究紹介

私は、「地域における高齢者の健康づくり」をテーマに研究活動をしています。具体的には、東海市社会福祉協議会の主催する「ゴムバンド運動教室」や東海市保健福祉課の主催する「貯筋はつらつ教室」で運動指導に関わってきました。これらの教室では、単なる指導に加え、よりよい運動方法が提供できるよう参加者のデータをもとに検討する介入研究を実施してきました。一方で、教室は参加して楽しいことをモットーに展開しています。この取り組みにより、今後も高齢者の皆様が生き生きとした生活を送ることができる地域づくりに「運動」という点から関わってゆきたいと考えています。

I 専門分野

文化人類学、歴史学

II プロフィール

長野県木曾郡生まれ、慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了

■担当科目：文化人類学、東洋文化論、総合ことば演習、文化教養ゼミ I・II

■所属学会：日本オリエント学会、日本中東学会、日本文化人類学学会

■社会的活動

東海市文化財調査委員

III 主要著書・論文

- ・「東海市の往時の万歳について」『研究報告とうかい』第2号 2009
- ・「金沢一伝統・再生・アメニティー」(共) 御茶の水書房 1991
- ・「新修根上町史、通史編」根上町役場 (共) 1995
- ・「東海地域の社会と文化ーブレイン・コミュニティ」(共) 御茶の水書房 2002
- ・「新編三好町誌別編 (共)」愛知県三好町 2007

IV 研究紹介

- ①文化財の調査、民俗調査 (石川県根上町、愛知県三好町)
- ②都市の職業集団研究 (石川県金沢市加賀友禅業者、金沢市消防団など)
- ③東海市の万歳の調査 (歴史、保存会活動)

V 地域の皆さんへのメッセージ

今後知多半島の文化財の調査でおじゃますると思います。ご協力をお願いします。

三田 勝己 (みた かつみ) 大学院・健康支援学研究所 教授

I 専門分野

生体情報工学、神経筋生理学、健康・福祉工学

II プロフィール

岐阜県多治見市生まれ、岐阜大学工学部卒業、日本電気株式会社、愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所・部長、川崎医療福祉大学・教授、2008年度から星城大学大学院・教授（工学博士）

■担当科目：＜大学院＞生活支援工学特論、生活支援工学演習、健康支援学特論、健康支援学研究法、健康支援学特別研究、生活行動科学特論、生活行動科学演習、医療福祉支援学特論、発達障害系リハビリテーション学特論、＜リハビリテーション学部＞ものづくり論基礎、ものづくり論応用

■所属学会：日本体力医学会（評議員）、日本電気生理運動学（評議員）、日本リハビリテーション医学会、日本生体医工学会、International Society of Electrophysiology and Kinesiology (ISEK)

■社会活動：日本重症心身障害児福祉協会（理事）

III 研究業績

下記のインターネット文献検索サイトなどへアクセスいただき、ご覧下さい（キーワード：三田勝己あるいは Mita K）。 <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/> <http://www.jamas.or.jp/>

IV 研究紹介

①情報通信技術（ICT）を活用した重症心身障害児の在宅ケア支援システムの開発

「重症心身障害児」とよばれ、重度の運動障害と知的障害を重複した人たちの在宅ケアを支援するために、テレビ電話やバイタル信号通信機器などを活用して遠隔診療をしたり、生活相談を行う ICT システムの研究開発を行っています。この ICT システムは高齢者や慢性疾患のある方たちの在宅療養にも役立つと考えています。

（情報技術（IT）を活用した重症心身障害児（者）の在宅支援 II. IT システムの開発と実証運用. 重症心身障害学会誌 32 (1): 99-105, 2007)

②重症心身障害児施設入所児（者）の実態調査の分析

重症心身障害児の約 1 万人の方が全国の公立、法人立の専門施設に入所されています。約 30 年にわたって、施設に入所されている方たちの生活の実態を調査しています。また、その調査資料（データベース）を詳細に分析していますが、より快適な生活ができるように役立てたいと思っています。

（公法人立重症心身障害児施設入所児（者）の実態調査の分析－病因別発生原因とその経年的変化－. 重症心身障害学会誌 33: 311-326, 2008)

③筋音図の基礎と応用に関する研究

筋は筋線維という細長い細胞の束で構成されています。私たちが体を動かそうとすると、この筋線維が収縮して力を発揮します。この時、筋の体表面に微細な振動が発生します。これを高感度のマイクなどで記録したものが筋音図です。私たちは、筋音図を記録するセンサーや計測機器を開発したり、筋音図を使って筋の収縮するメカニズムを調べたり、筋疾患の診断に役立てるための研究をしています。

（筋音図法の基礎. 臨床脳波 50 (11): 649-656, 2008)

V 地域の皆さんへのメッセージ

研究内容に興味をもたれた方はお問い合わせください。本大学院で一緒に研究を希望される方を歓迎します。社会人のための制度もありますから、働きながら勉強し、修士の学位を取得することも可能です。

交流・連携の推進のために

知識社会化がすすむ地域社会では、地域資源の活用や農商工連携、地域ブランド戦略や産業クラスターの形成、創造的都市や健康長寿のまちづくりなどという、新たな発想による地域振興が求められています。そこでは、個性的で魅力あるまちづくりを実現するために、地域を基盤とする大学の役割は一段と重要になっていると考えられます。

そのため、産官学の連携や市民との協働を通じて、地域に潜在する資源、特に人的な資源、知的資産、ものづくりノウハウ等に着目し、それらを評価し活かす社会的な装置が求められます。皆様とともに、時代が求める社会貢献の人づくりの取り組みがますます重要になるでしょう。

本年の3月6日、地域交流センター主催の「地域連携懇談会」を開催し、本学が取り組もうとしている地域交流・連携の考え方をご説明する場を設けました。愛知県知多県民センター、東海市、大府市、知多市、半田市、東浦町など知多地域の市町村・商工会議所・商工会の方々にご出席いただきました。

そこでは、本学が考えている協働プロジェクトをご提案し、またご参加いただいた方からの地域ニーズやお取り組みをお話しいただきました。これを契機に、東海まちづくり研究会や地域カード研究会が発足しており、それ以外のプロジェクトも始動しつつあります。

地域の皆様と大学との連携を図るためには、信頼の絆をつくりながら共同で取り組むテーマをいかに見つけるかがポイントになります。大学側としては、シーズの押しつけではなく、地域のニーズに応じた柔軟な対応が求められると考えています。

ご関心をもたれた教員に直接ご連絡いただいてもけっこうですが、地域交流センターにお問い合わせいただくと、より良いマッチングができるよう調整に努めます。この「研究シーズ集」が、実り多い連携・交流の手がかりとなることを念願しております。

☆お問い合わせ先

星城大学・地域交流センター（〒476-8588 東海市富貴ノ台2丁目172番地）

電話：052-601-6000（代表） ファックス：052-601-6010

E-mail：koryu@seijoh-u.ac.jp